

やすらぎ

第27号

平成27年1月1日発行

岐阜市民病院 代表電話 058-251-1101 ホームページ <http://gmhosp.jp/>



理念 心にひびく医療の実践

- ### 基本方針
- 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
 - 安全で信頼されるチーム医療を行います。
 - 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
 - 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
 - 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。



お近くの診療所に「かかりつけ医」をもちましょう

今年、医療が進歩し、がんや糖尿病などの病気を多く持ちながら元気に暮らされるご高齢の人が増えています。これに対応するため、一つの病院・診療所が一人の患者さんをつつと診るのではなく、皆さんが生活している地域の中で、病院や診療所が上手につながって（連携して）、互いの得意なところをつないで最適な医療を提供する体制に変わってきています。

病院にもいろいろな役割があり、急性期、回復期リハビリ、療養などに分けられています。市民病院は急性期病院です。急性期病院は、高度な手術や

岐阜市民病院の役割と上手なかかり方

病院長 富田 栄一

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

今回は市民病院の上手なかかり方をご紹介します。

以前は、一つの病院や診療所が一人の患者さんをつつと診ておりました。その理由として、医療が今ほど高度化、多様化していなかったこと、また、高齢化が今ほど進んでいなかったことがあげられます。

患者さんとして医療を利用される皆さんに知っていただきたいことは、皆さんお一人お一人が、地域全体で最適な医療を提供するこの体制の重要なメンバーであることです。特にご高齢の患者さんについては、生活に即した患者さんの診療を得意とする「かかりつけ医」をお持ちいただき、この医療体制を上手に利用して、ご自分の生活をできるかぎり活き活きとお過ごしくださいと考えます。

当病院では平成十四年より地域連携部を設置し、かかりつけ医と病院の専門医を円滑につなぐ役割を担いながら、患者さんが地域の中で最適な医療を受けられるよう努めております。

専門的な抗がん剤治療など、積極的に病気を治す治療、言い換えれば、攻める治療が必要な患者さんの診療を得意としています。また糖尿病などの生活習慣病や慢性的な病気に関しては、不安定な状態を安定した状態まで持つていくことを得意としています。

診療所（かかりつけ医）が得意とするところは、病気が安定した状態（慢性期）や生活習慣病などに対して生活に寄り添った医療を継続的に提供することです。また、患者さんが急性期医療を必要とする時には、地域内の病院の専門分野や特長を熟知し、最適な病院に紹介していただくことも重要な役割となります。

◎C型肝炎の最新治療

肝臓内科部長 西垣 洋一

私が市民病院に赴任した平成元年頃は、まだC型肝炎という病名はありませんでした。ただA型でもB型でもない肝炎が存在し、非A非B型と呼ばれるようになりました。平成二年にC型肝炎ウイルスが発見され、当時は治療としてインターフェロン単独治療しかなく、副作用が強いわりにあまり効果がなかった事を記憶しています。その後多くの肝硬変、肝がんの患者さんを診させて頂きましたが、残念ながら多くの方が亡くなりました。C型肝炎さえなければ元気に過ごせた多くの方を思い、なんとかならないものかと思い続けてきました。医学は着実に進歩し、ようやくほとんどのC型肝炎患者さんのウイルスを副作用なく消すことができる時代に入ってきました。

この九月から新しい経口抗ウイルス剤が発売されました。二種類の薬を六ヶ月間毎日内服して頂きます。副作用としては、肝機能障害、発熱、頭痛があげられますが、肝機能障害には注意が必要で、内服開始三ヶ月後までは頻りに肝機能をチェックする必要があります。費用については、高額な薬ですが助成制度があり、月に一〜二万円程

度の負担額となっています。大変良い薬ですが、現在のところこの薬を飲んでいただく条件があり、残念ながら全体的に対象ではありません。高齢（およそ七十歳以上）の方、血小板が少ない方、貧血の方、うつ病の既往のある方など、インターフェロン治療が適さない方や、過去のインターフェロン治療でウイルスが消失しなかった方が、この薬を飲んで頂くことができます。

以上のように、従来のインターフェロン治療と異なり副作用がほとんどなく、薬に治療が受けられますので、治療を受けるかどうか悩んでおられる方は、一度医師にご相談ください。また、C型肝炎は症状がほとんどないため、気づかないまま過ごされている方も多いと思います。肝炎検診などを受けておかれると良いと思います。

この薬で効果がなかった場合には、さらに効果の良い薬の開発が進んでいますのでしばらくお待ち下さい。全ての患者さんのC型肝炎ウイルスが消える日を待ち望んでいましたが、そう遠くはないようです。



在宅推進支援プロジェクトの役割と活動について

看護部在宅推進支援プロジェクト
委員長 上野 啓子

看護部の委員会として平成二十六年より「在宅推進支援プロジェクト」として活動を始めました。きっかけとなったのは、国が進めている地域全体での医療の役割分担です。

高度で専門的な医療を提供する市民病院は急性期病院という役割を担っています。入院された患者さんは平均十二〜十三日程度で退院となり、ご自宅へ戻られるか他の医療施設へ移られます。しかし今後ますます高齢化が進むに伴い、心臓疾患・脳卒中・がん等になる人が増えるため、急性期病院を退院したあとを担っている回復期や慢性期の病棟のベッドが足りなくなることが予想されています。

そのため、急性期病院での必要な治療が終わり、すぐにご自宅に戻る方が、今まで以上に



増えることから在宅での医療の重要性が高まっています。

在宅医療への移行の重要性については理解できたのですが、臨床看護師として自信と責任をもって患者さん・ご家族と在宅での療養を一緒に考えることが大切であると感じました。そこで、岐阜市内で活動してみえる訪問看護ステーションに出向き、実際の訪問場面に行かせていただくことで私たちの訪問看護についての知識や技術を学ぶことを目的としました。

プロジェクトメンバーは、看護部・地域連携部の職員十四名で、四か所の訪問看護ステーションに二人一組となり、二か所ずつ研修させていただきました。

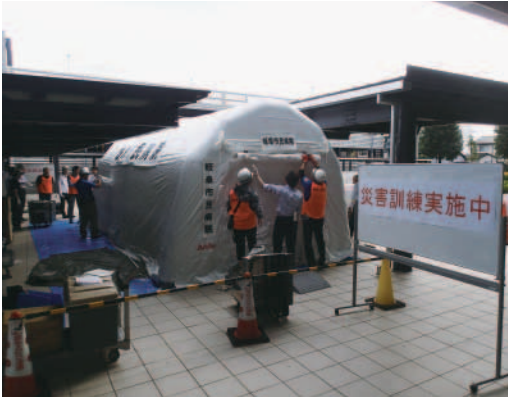
研修先では、私たち研修生を快く迎えていただき、丁寧なオリエンテーションから始まりました。先生方の診察場面、訪問看護師の方々の患者さん宅での心のこもったケア、栄養士さんが考えられたバランスの整ったフーズン、ヘルパーさんの患者さんへの優しい声かけなど臨床場面では見られない医療・ケア場面を見ることができ多くの学びにつながりました。

在宅は指導・環境調整・会話による安心できる声掛け、傾聴がメインであり、多くのなかの一人ではなく、各個人の思いや生活様式を大切に、かわっていると感じました。

災害訓練を実施して
 災害対策委員会

十月十一日に平成二十六年年度の第一回目となる災害訓練を実施しました。

市民病院は、平成二十三年十月に岐阜県から災害拠点病院の指定を受けてから、様々な災害用備品を配備してきました。しかし、平成二十五年年度までは改築整備工事を行っており、病院敷地内で災害用備品の設営訓練を実施することができず課題となっていました。そこで、今回の訓練では、災害用備品の中から「テント」、「可搬式発電機」、「投光器」を選定し、病院玄関前を使用して現場設営訓練を行うことにしました。



除染用エアテントの設営訓練

これらは、災害が発生して多数の傷病者が来院した場合に必要な備品であり、テントはトリアージ（重症度によって治療の優先順位を決める行為）や、化学災害が発生した際の除染場所として使用します。

当日は、行楽日和の秋晴れとなる中、病院幹部職員を含む約六十名が参加し、備品の運搬、設営、撤収訓練に従事しました。多数の外来患者さんや来院者に見守られ、初めての作業で悪戦苦闘しながらも、備品の設営にかかる時間や手法などを学びました。

これからも当病院では、このような設営訓練を継続して実施していき、この三月には二回目の訓練を計画するなど、災害時における体制強化に取り組んでまいります。



可搬式発電機の使用訓練

メディカカードのご案内
 医事課

市民病院では平成二十六年八月より、当病院の医師が疾病に感じ所持することを推奨する患者さんを対象に、メディカカードを発行しております。



メディカカード（見本）

メディカカードには「氏名、生年月日、連絡先」の基本情報と、「病歴、処方、アレルギー」などの医療情報が保存されています。

岐阜県内の全救急車にはメディカカードの内容を読む機械が配備されており、駆け付けた救急隊はメディカカードを機械にかざすだけで、どのような病歴があるか、どのようなお薬を飲んでいるかなどを把握することができます。

す。そのため、所持していることで、救急医療の現場や災害時において迅速に的確な処置を行うことが可能となります。

メディカカードの内容は暗号化されておりセキュリティで守られています。救急隊など必要な人以外は内容を確認することができません。

なお、メディカカードの情報は何度でも書き換えることができるので、治療をしていく中で、万が一の際、救急隊に伝える必要がある事項が追加となった場合は更新します。

カードを所持していたことにより救急対応がスムーズに行われた事例も出ております。簡単な手続きで発行できますので、ご興味のある方は当病院の医師にご相談ください。





患者さんへの大切なお願い

体調が悪いと感じた時は、**まずはお近くの診療所（かかりつけ医）を受診してください。**必要な時は、かかりつけ医から市民病院などの専門医療機関を紹介していただけます。

かかりつけ医に書いてもらった紹介状を持参して、市民病院を受診してください。

患者さんのメリット

◆かかりつけ医に紹介状を書いてもらう時に、予約することで待ち時間が短くなります。（紹介状がない場合や紹介状があっても予約がない場合は、長時間待ついただくこととなります）

◆紹介状をお持ちの場合、選定療養費（2,160円）がかかりません。

選定療養費…「200床以上の病院」を紹介状なしに受診される初診患者さんに、追加で自己負担していただく特別の料金。救急外来、こども医療受給者証・ひとり親医療受給者証をお持ちの方においても同様の取り扱いとなります。



地域がん診療連携拠点病院 講演会のご案内

がん市民公開講座（参加費無料）

日 時：平成27年3月1日（日）午後1時から午後4時まで

会 場：岐阜市民病院 西診療棟4階 サルビアホール

講演1：小児がんの子どもの未来（岐阜市民病院小児科部長 篠田邦大）

講演2：抗がん剤治療、そして私の青春（がんサバイバー・ピアサポーター研修生 宗像若菜）

講演3：抗がん剤治療を受けるといこと、男として・父として（がんサポートセンター 横山光恒）

特別講演：「抗がん剤は効かない」の罪 - 「がん放置療法」は「市民のための」がん治療か -
（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授 勝俣範之）

パネルディスカッション：「市民のための」がん治療を考える

申込方法：住所、氏名、年齢、電話番号を2月23日（必着）までに、ファックス（252-1335）、郵送または市民病院ホームページの申込みフォームでお申し込みください。

問合せ先：病院政策課（〒500-8513 岐阜市鹿島町7-1）電話251-1101（内線4307）

編集後記

読者のみなさん「やすらぎ」第27号が完成しました。本号では、岐阜市民病院の役割と上手なかかり方、C型肝炎の最新治療、在宅推進支援の役割と活動、災害訓練、メディカカードについて掲載いたしました。

その他に、現在、岐阜商工会議所の「月報」に当院の医師が健康情報を毎月提供しております。機会がありましたら、一度ご覧ください。

編集部一同



外来診療のご案内

●診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科

●休診日

土・日・休日と12月29日～1月3日

*詳細はホームページでも紹介しています。

市民病院ホームページ <http://gmhosp.jp/>

